

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： **大学院医歯薬学総合研究科 歯学系(基礎系・臨床系)・病院教員** 部局長名： **窪木 拓男**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b> 1) 大学院履修コースの充実 (背景:大学院生のニーズの多様化と融合型教育に対応するため) 一般コースと臨床専門医コースを中心とする履修コースを充実させる。基礎系・臨床系分野が協力し歯学系独自の研究(融合型)と教育を推進する。研究デザインワークショップを研究倫理に注力しながら、新医療研究開発センターと協力して拡充する。留学生の増加に対応して、一部の授業の英語化を試みる。 2) 大学院生の確保 (背景:研究マインドを醸成し、研究活動を活性化するため) 歯科研修医等の研究マインドの醸成に努める。一般コース、臨床専門医コースの説明会を学部生や研修医に向けて行い、大学院生の確保に努める。交流協定を結んだ大学等から優秀な大学院生の留学を促進すべく、国際交流事業を促進する。 3) 学務機能の電子化の推進 (背景:大学院生の履修自己管理を可能とするため) 大学院の学務システムの充実とブラッシュアップを行う。	1) 大学院履修コースの充実 ●連携大学院科目として分子イメージング科学(理化学研究所)、総合感染症学(国立感染症研究所)、長寿医療科学(国立長寿医療研究センター)、レギュラトリーサイエンス学(医薬品医療機器総合機構)の4科目を加え、履修コースを充実させた。特に、分子イメージング科学コースは、文部科学省 岡山分子イメージング高度人材育成事業のサポートが丁度終了した所であるが、授業シリーズを充実・継続し、大学機能強化戦略経費の支援を得て、平成28年2月13日、14日、20日に実施した。 ●文部科学省大学院高度化推進経費の採択を頂いた「医療系大学院高度専門人材育成事業—臨床専門医コース(歯学系)—」の取組みは、歯科専門医教育の質保証の観点から優れた取組みとして認められ、文部科学大臣のプレゼンに採用される等、岡山大学モデルとして広く認知されてきた。その結果、北海道医療大学の「認定医・専門医養成コース」、北海道大学の「高度専門臨床歯科医養成コース」、岩手医科大学の「高度臨床歯科医養成コース」、東京医科歯科大学の「がん治療高度専門医養成プログラム」、九州大学の「臨床専門医コース」、鹿児島大学の「歯科高度専門臨床医養成コース」などが続々と設置され、その影響が全国に波及している。 ●臨床専門医コースの充実へ資するため、厚生労働省 実践的な手術手技向上研修事業の採択を受けて、「インプラントの外科手術」を平成27年12月20日に開催、医歯薬学総合研究科人体構成学分野、口腔機能解剖学分野との協体制のもと、全国から受講者30名が集まった。 ●大学機能強化戦略経費「医療系大学院高度専門人材育成事業」の採択を得て、大学院博士課程 臨床専門医コースの1年目に受講することを必須化した「臨床研究デザインワークショップ」を8月2日、3日に第9回として開催した。前回より、岡山大学病院新医療研究開発センターが企画し、医歯薬学のみでなく、全学を対象を拡大し、180名の参加を得て充実したプログラムとなった。また、臨床研究倫理審査申請の研究者申請要件に、本ワークショップ参加が含まれる等、順調に発展している。 ●文部科学省によって昨年度採択された「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(歯科医師養成系としては全国2件のみ)により、北大、阪大、九大、長大、鹿大、金沢大、岩手医大、昭和大、日本大、兵庫医大と岡大が歯学教育改革コンソーシアムを設立した。もともと、このコンソーシアムは歯学教育に特化した組織であったが、革新的医療技術創出拠点の歯学系拠点として機能するようになり、レギュラトリーサイエンスの動向を配信する貴重な連携組織となった。 ●研究方法論基礎・応用においては、半数の授業で英語のスライドを用いた授業を行い、外国人留学生対策を進めた。また、EPOKの英語授業「ライフサイエンス入門」を、医学系、歯学系、薬学系の英語が堪能な教員が対応して開講し、外国人留学生向けの大学院講義としている。さらに、短期留学生の増加に伴い歯学部で開講している「ODAPUS for Foreign Students 英語授業シリーズ」は、大学院の「みなし講義」としても開講し、貴重な外国人留学生向け、大学院英語授業として活用されている。
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> 1) 大学院生の充足率 2) 外国人留学生の増加	●臨床専門医コースの充実へ資するため、厚生労働省 実践的な手術手技向上研修事業の採択を受けて、「インプラントの外科手術」を平成27年12月20日に開催、医歯薬学総合研究科人体構成学分野、口腔機能解剖学分野との協体制のもと、全国から受講者30名が集まった。 ●大学機能強化戦略経費「医療系大学院高度専門人材育成事業」の採択を得て、大学院博士課程 臨床専門医コースの1年目に受講することを必須化した「臨床研究デザインワークショップ」を8月2日、3日に第9回として開催した。前回より、岡山大学病院新医療研究開発センターが企画し、医歯薬学のみでなく、全学を対象を拡大し、180名の参加を得て充実したプログラムとなった。また、臨床研究倫理審査申請の研究者申請要件に、本ワークショップ参加が含まれる等、順調に発展している。 ●文部科学省によって昨年度採択された「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(歯科医師養成系としては全国2件のみ)により、北大、阪大、九大、長大、鹿大、金沢大、岩手医大、昭和大、日本大、兵庫医大と岡大が歯学教育改革コンソーシアムを設立した。もともと、このコンソーシアムは歯学教育に特化した組織であったが、革新的医療技術創出拠点の歯学系拠点として機能するようになり、レギュラトリーサイエンスの動向を配信する貴重な連携組織となった。 ●研究方法論基礎・応用においては、半数の授業で英語のスライドを用いた授業を行い、外国人留学生対策を進めた。また、EPOKの英語授業「ライフサイエンス入門」を、医学系、歯学系、薬学系の英語が堪能な教員が対応して開講し、外国人留学生向けの大学院講義としている。さらに、短期留学生の増加に伴い歯学部で開講している「ODAPUS for Foreign Students 英語授業シリーズ」は、大学院の「みなし講義」としても開講し、貴重な外国人留学生向け、大学院英語授業として活用されている。
	2) 大学院生の確保 ●本年度も大学院(一般コース、臨床専門医コース)の説明会を研修医や臨床実習生に向けて開催し、歯学系の責任枠を超える大学院生(33名[責任枠:32名])の確保に成功した(国費外国人留学生2名を含む)。臨床専門医コースを選択する者が大半を占め、継続して中四国地区歯学系大学院で最も学生確保に成功した。 ●現在外国人大学院生は、10名である。 3) 学務機能の電子化の推進 ●大学機能強化戦略経費(大型プロジェクト等支援)の採択を得て、大学院電子学務システムPOSGRAの英語化と大幅な改修を行った。歯学系学務と協力し、大学院生に情報伝達する機能に加えて、社会人大学院生が学外からも、自分の履修状況や提出書類などの状況がわかるように電子化を進めた。また、SNS機能を付与して、大学院生同志の情報交換を可能にした。 4) 客観的指標 ●歯学系大学院生の定員充足率:103% ●国費外国人留学生2名入学、総外国人大学院生は10名

<h2>②研究領域</h2>	<h2>自己評価</h2>
<h3>②-1 目標</h3> <p>1) 歯学系融合型研究の推進  (背景:歯学系独自の研究の推進と次世代の研究・教育者の育成のため)  歯学系内での基礎研究と臨床研究の橋渡し(トランスレーショナル・リサーチ)の体制構築について検討する。</p> <p>2) 新しい学際研究の推進  (背景:学際研究連携を推進するため)  医療系学部としての学際研究のあり方について検討する。医療系部局(医学系・薬学系)との研究交流をさらに活発化させ、新たな研究シーズの発見とその応用に向けた取り組みを開始する。</p> <p>3) 医師主導臨床治験の推進  (背景:臨床研究中核病院事業に参画するため)  医師主導臨床治験や臨床疫学研究を積極的に実施する。</p>	<p>1) 歯学系融合型研究の推進  ●歯学部将来構想検討WG会議を開催し、若手PI教官が自主的に研究セミナーを開催する「バイオフィオーラム」が順調に活動した。また、歯学部先端領域研究センターが主催するARCOCSセミナーを分野持ち回りで開催し、分野融合型研究を促進した。  ●歯学部先端領域研究センターのセンター長に、特任教授を配置した。これにより、機能系ならびに形態系共同実験施設の一体的な運用、教育、研究面での機能の向上が図れた。また、2名の国費外国人留学生在が大学院博士課程修了後、JSPS外国人特別研究員として研究を継続する際の受け皿として機能している。さらには、本センターを中心に分野融合型研究に積極的に取り組むことが可能となっている。</p> <p>2) 新しい学際研究の推進  ●平成25年～27年の計画で採択された、文部科学省 概算要求特別経費(プロジェクト分)一国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実―「分子イメージング・マイクロドーズ(第0相)臨床試験体制を擁する分子標的治療研究・教育拠点の構築―理化学研究所との連携による教育研究基盤の確立」を推進した。歯学系長が中心となって、研究科内に有望な研究計画を募集し、その実績に合わせて研究経費を配分した。本年は、Phase IIIが7件、Phase IIが6件、Phase Iが3件、Phase 0が1件となっている。</p> <p>3) 医師主導臨床治験の推進  ●臨床研究中核病院事業に加えて、平成16年9月8日には橋渡し研究加速ネットワークプログラム「健康寿命の延伸を目指した革新的医療研究開発拠点」が採択された。歯学系の課題解決型高度医療人材養成プログラムの採択により構築した歯学教育改革コンソーシアムが、全国規模の医療機器開発のプラットフォームとして高く評価され、本採択に少なからず貢献した。平成27年度は、歯学系から、シーズAが4件採択され、新医療研究開発センター特任助教が4名雇用され、臨床研究・教育業務を支えている。</p>
<h3>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</h3> <p>1) 欧文ISI掲載論文数  2) 総被引用度数  3) 科学研究費採択率  注) 相対被引用度数(5年平均)がトムソンのデータベースの変更により、比較が困難になったため、割愛した。</p>	<p>4) 客観的指標  ●欧文ISI掲載論文数(歯学関係) 全国国立大学歯学部3位(11校中、トムソノライター調べ)  ●総被引用度数(歯学関連) 全国国立大学歯学部2位(11校中)  ●Top1%論文の相対値 全国国立大学歯学部2位(11校中)  ●Top10%論文の相対値 全国国立大学歯学部2位(11校中)  ●国際共著率 全国国立大学歯学部1位(11校中)  ●文部科学省科学研究費の申請および採択率  歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数102件(退職直前・留学中の教員5名を除く全員申請)、新規採択率4.1%、教員取得者率76.0%(重複カウントせず)で高い水準を維持した。本結果は、全国の国立大学歯学部の中で同率3位(平成26年度文科省調べ)、岡山大学の主要部局の中でトップの成果であった。</p>
<h2>③社会貢献(診療を含む)領域</h2>	<h2>自己評価</h2>
<h3>③-1 目標</h3> <p>1) 医科との診療連携を推進する  (背景:多職種医療連携を促進するため)  医科との医療連携の推進のため、医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターの活動を推進し、新たな人材の育成、教育、研究の充実を図る。</p> <p>2) 地域の医療機関との連携を促進し、中核病院としての機能の充実を図る。  (背景:大学病院を中心とした地域連携を促進するため)  地域の病院歯科等と大学病院のネットワーク化を進めるためのシステムの検討を行う。</p> <p>3) 各専門診療科は増収に努めるとともに、患者サービスの向上により利用される病院を目指す。</p> <p>4) デジタル化に対応した医療情報システムならびに診療体制の充実を図る。</p> <p>5) 産学官の連携によって、研究成果を医療や産業へ展開する。</p>	<p>1) 医科との診療連携を推進する  ●周術期管理センターの稼働が増すに連れ、医療支援歯科治療部の教育研究ニーズが増している。歯学系では、歯学教育・国際交流推進センターを歯学系長の下に新規に設置し、歯学系組織の人員再配置により、助教を3名専任配置した。これらの3名は医療支援歯科治療部にに関わり、医科歯科連携診療や教育研究に尽力させることとした。また、執行部の下で、部局内URAの機能を担い、分野を超えた部局の情報収集、シンクタンクや戦略立案に寄与させた。毎週月曜日に歯学部長室で会議を開催し、開催数が通算50回を超える程になった。  ●岡山大学病院における、NST、クリニカルパス、周術期管理センター、腫瘍センター、頭頸部がんセンター、口唇口蓋裂センター、小児医療センターなどで、積極的な医科歯科連携が実施されている。また、文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」の採択を受けて、中四国地方随一の教育拠点として口腔がん専門医の養成に向けて、岡山大学病院口腔外科が中心的な役割をなしている。</p> <p>2) 地域の医療機関との連携を促進し、中核病院としての機能の充実を図る  ●岡山県や岡山市歯科医師会との積極的な交流により、地域の中核病院や在宅介護現場で歯科医療を現場教育する臨床教授、臨床准教授、臨床講師を積極的に任用した。  ●歯科専門外来の受診を則すため、病院のむし歯の日のイベントで積極的に広報した。また、ホームページで、患者が感じている問題に基づく患者ナビゲーションシステムの構築や専門外来の積極的な広報を行った。</p>
<h3>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</h3> <p>1) 歯科系外来患者数  2) 歯科系診療報酬請求総額</p>	<p>3) 各専門診療科は増収に努めるとともに、患者サービスの向上により利用される病院を目指す(客観的指標を含む)  ●外来総患者数 全国国立大学歯科系附属病院5位(11校中)  ●外来総診療報酬請求額 全国国立大学歯科系附属病院4位(11校中)  ●診療総報酬請求額 全国国立大学歯科系附属病院4位(11校中)</p> <p>4) デジタル化に対応した医療情報システムならびに診療体制の充実を図る  ●大学病院の電子カルテが外部の医療機関から閲覧できる晴れやかネットに参画した。地域包括ケアの基盤システムとして検討している。</p> <p>5) 産学官の連携によって、研究成果を医療や産業へ展開する  上記の医師主導臨床治験の推進を参照のこと。</p>
<h2>【総括記述欄】</h2>	
<p>本年度は、概ね良い結果が得られた。電子授業システムの確立を目的とした課題解決型高度医療人材養成プログラムの進捗状況も良好である。科学研究費補助金の採択率が維持できるよう、継続して申請支援を行いたい。また、新規に設置した、歯学教育・国際交流推進センターに配置した部局URAの機能を担う助教のパフォーマンスをみながら、人員配置やエフォートの最適化を行いたい。来年度の大きな目標は、岡山県歯科医師会立歯科衛生士専門学校と岡山市歯科医師会立歯科技術専門学校との連携組織構築、及び、大学院の国際化対応である。各分野のホームページの英語化、歯学系のホームページの英語化などを通して、大学院全体の英語化を進めるべきと考えている。また、国費外国人留学生の倍増計画に向けた頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムや国費外国人留学生の重点配置を行う特別プログラムの獲得が望まれる。</p>	